

イフェクサー<sup>®</sup>SRカプセルを  
服用される患者さんと  
そのご家族の方へ



# イフェクサー®SRカプセルを服用される患者さんとそのご家族の方へ

このおくすりを服用する際には、以下のことに注意してください。

## 服用中に注意する症状について

- うつ病やうつ状態の人、全般不安症 (Generalized Anxiety Disorder: GAD) の人は、死んでしまいたいと感じることがあります。このおくすりをのんでいる間、特にのみはじめやのむ量を変更した時に、一時的に不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることがあるので、このような症状があらわれた場合には、医師に相談してください。
- 不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調をきたす、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合には、医師に相談してください。このおくすりとの関連性は明らかではありませんが、これらの症状があらわれた人の中には、うつ症状などのもととある病気の症状が悪化する場合は、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。

## 18歳未満の患者さんの服用に関する注意点

- このおくすりは小児に対して承認された用法・用量はありません。
- 7～17歳のうつ病性障害のある人がこのおくすりをのんだ場合、有効性が確認できなかったとの報告があります。小児の全般不安症 (GAD) の人におけるこのおくすりの有効性の情報はありません。
- このおくすりの投与により18歳未満の患者さんにおいて、死んでしまいたいという気持ちを強めるという報告があります。
- 18歳未満のうつ病性障害のある人や全般不安症 (GAD) の人は、医師と十分に相談してください。

## 自動車の運転などに関する注意点

- 自動車の運転など、危険をともなう機械の操作が必要な場合には、医師に相談してください。
- 眠気、めまいなど、自動車の運転などに影響を与える症状があらわれることがあります。眠気、めまい、睡眠不足など体調不良を自覚した場合は、絶対に運転しないでください。
- このおくすりののみはじめ、のむ量を変更した時、他のおくすりから変更した時に、眠気、めまいなどがあらわれやすいため、医師に一定期間運転をしないよう指導された場合は、指示にしたがってください。

## おくすりの服用について

- このおくすりは徐々にのむ量を増やしながら、患者さんに必要な量を調整していきます。症状を改善するためには、決められた量のおくすりを続けて服用することが大切です。
- このおくすりは、体調がよくなったと自己判断して服用を中止したり、量を減らしたりすると、些細なことでも心配になる、いらいらする、あせるなどの症状があらわれることがあります。指示どおりにのみ続けることが重要です。

## おくすりの効果について

- このおくすりはのみはじめですぐに効果があらわれるものではありません。効果があらわれるまでに2～4週間ほどかかります。この間におくすりの服用を勝手に止めてしまうと、おくすりが効いているのかどうか正しく判断できません。

## ご家族の方のサポート

- ご家族の方は、死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調をきたすなどの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもととある病気の症状が悪化する危険性について医師から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化がみられた場合には、医師に連絡してください。また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。

## 気になる症状がある場合は

- おくすりののみはじめに吐き気、下痢などの副作用があらわれることがありますが、多くの患者さんでは、しばらくするとおさまります。自己判断でおくすりの服用を止めずに、担当の医師にご相談ください。

※ この他にも気になる症状があらわれた場合は医師、薬剤師にご相談ください。

## おくすりチェック

このおくすりには、内容量の異なる2種類のカプセルがあります。服用前に服用する量 (カプセルの種類と数) をご確認ください。



イフェクサー®SR  
カプセル 37.5mg



イフェクサー®SR  
カプセル 75mg

原寸大

# 全般不安症 (GAD) の患者さんとそのご家族の方へ

このおくすりは、医師によりうつ病・うつ状態ならびに全般不安症 (GAD) と診断された患者さんに対して投与されます。全般不安症 (GAD) の患者さんは、以下の項目を必ずご確認ください。

## 全般不安症 (GAD) の症状について

- 全般不安症 (GAD) の患者さんには、精神症状と身体症状があらわれます。

### ① 不安・心配の症状 (精神症状)

- 1つの決まった対象ではなく、仕事 (学校)、家庭、健康など、多くの出来事や活動についての過剰な不安と心配 (何か悪いことが起こりそうという予期憂慮) に悩まされます<sup>1,2)</sup>。
- 予期憂慮が起こる日の方が、起こらない日よりも多い状態が6ヵ月以上続きます<sup>1)</sup>。

### ② 精神症状と身体症状

- 全般不安症 (GAD) は、不安・心配に加えて、次の精神と身体の6つの症状のうち、3つ以上で診断されます<sup>1)\*</sup>。 \*児童の場合は、1項目だけが必要

- 落ち着きがない、緊張感や神経の高ぶりがある (精神症状)
- 疲れやすい (身体症状)
- 集中できない、心が空っぽの状態になる (精神症状)
- 些細なことでもいらいらする、怒りっぽい (精神症状)
- 頭痛、肩こり、筋肉痛といった筋肉の緊張 (身体症状)
- 睡眠障害 (精神症状、身体症状)

- 「不安でつらい」、「仕事 (勉強) や家事、私生活での遊びなど、必要な活動が十分にできない」などの精神症状と身体症状により、日常生活に支障をきたします。

## 全般不安症 (GAD) の診断方法について

- 全般不安症 (GAD) は、次のような情報を踏まえて医師が診断します<sup>1)</sup>。

- 日々の生活の中で気になることがあれば、自己判断せず医師に相談しましょう。

- 精神症状や身体症状の有無
- 症状がどのくらいの期間 (6ヵ月以上) 続いているか
- 日常生活に影響は出ているか
- のんでいるおくすりや、他の病気の影響はないか

## 全般不安症 (GAD) の治療について

- 薬物療法と精神療法があります。

### ① 薬物療法

- 脳内神経伝達物質 (ノルアドレナリン、セロトニンなど) のバランスの乱れをくすりを服用して整えます。
- 薬物療法は、効き目が出るのに時間がかかる場合があります。効き目が少ない場合、少量から開始して徐々に増量することもあります。また、吐き気や眠気などの副作用が出ることもあります。
- 薬物療法においては、ご自身が十分に理解してから服用することが重要ですので、疑問点などはその都度、担当の医師や薬剤師に聞いて、よく相談して進めていくことが大切です。

### ② 精神療法

- 精神療法は、患者さんのお話を傾聴し、受容する支持的な精神療法に加えて、ストレス対処法、不安に対する心理教育、生活習慣指導、リラクゼーション法などが行われます。効果が知られている精神療法である認知行動療法 (CBT) は、考え (認知) や行動のクセを修正し、不安をやわらげます。

1) 日本精神神経学会 (日本語版用語監修)、高橋 三郎・大野 裕 (監訳): DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル。p.242, 医学書院, 2023

2) こころの情報サイト。こころの病気を知る - 不安症 <https://kokoro.ncnp.go.jp/disease.php?uid=BLA9JY0KHiWPIMzX> (2026年3月3日確認)

ヴィアトリス製薬合同会社

〒106-0041 東京都港区麻布台一丁目3番1号